

五感で診察



所長 宮下 明

いまコロナ感染対策として、パソコンを使っておこなうウェブ会議なるものがはやっています。ウェブ会議とは？パソコンの画面がいくつにも分割され、会議に参加している人の顔が映り、説明を聞いたり、質問したり、意見を言ったりできる会議のことです。実際に出向かなくても自宅や職場から会議に参加できるし、書類や写真も見せ合うことができます。介護施設で、訪問診療医、訪問看護師、薬局の薬剤師さん、施設のケアスタッフが参加して毎月行っているウェブ会議は、感染予防のためなるべく外部の人間を施設の中へ入れたくない今、時宜にかなう方法といえます。ここ10年ほど器械の使用説明書を読むのが苦手になり、いまだにテレビの録画方法が分からないローテクな宮下ですが、会議を主催しなければならぬことも多く、やむなく若者に聞きながらやっています。でもいろいろな課題が見えてきました。

藤沢の補聴器の店で聞いたことですが「お客さんの中には、ごはんだよ、って家族が大きな声で言ってくれるから多少聞こえなくてもいい、という人がいるんです。でも会話っていうのは、必要なことだけ聞こえればいいのかというのではなく、はっと息をのむ音とか、声の調子とか、本題に関係ない無駄話とか、そういうのがみんな聞こえるのが大事。頭への刺激にもなるんですよ」。

ウェブ会議だと、そんな無駄話やため息は聞こえません。会議中、議長と発言者以外はマイクを切っていますのでシーンとしています。眠たい顔や、やる気のない顔もみえません。カメラを切ることもできるからです。なので、この方式はすでに見知った人とのつながりをなんとか保っていくには役立つと思いますが、初めて会う人と画面を介してだけで交流を深めるのはなかなか難しいと思います。

先日、遠隔診療（パソコンでおこなう診療）が3大臣の合意を得た、というニュースが飛び込んできました。診療を政治家達はなんて考えているのでしょうか？診察室に入ってくる時の足取り、声の調子、顔色、肌の張りやしっとり具合（乾き具合といってもいいですが）、唾を飲むときののどの動き、指のふるえ、胸の音、足のむくみ、左右の皮膚温の違い、などなど、われわれプロは5分ほどの間にたくさんのことを五感に感じています。説明が聞こえたかな、理解してくれたかな、ということも気になります。ちゃんと転ばないで家に帰れますように、と祈るような気持ちで（この頃足腰弱った人が増えたのでね）送り出します。その繰り返しが、人と人との関係性、なんでも話し合える関係性を作り上げていくと思います。ウェブ会議で便利になるのはいいことですが、便利を求めるあまり、得られなかったり、失ったりすることも多いのでは、と感じています。いまはコロナ予防のために仕方ないですけどね。

まだまだ先は見えませんが、マスク、換気、手洗いでがんばりましょう。あと補聴器を使っている方へ。調整は大変だけど大事です。できる範囲であきらめず。